

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 5日は、低気圧が発達しながら千島の東へ進む。大陸の高気圧が日本付近に張り出し、日本付近は西高東低の気圧配置となる。
- 6日から7日は、気圧の谷が北日本付近を通過し、低気圧が日本の東を東へ進む。
- 6日から9日にかけて、高気圧が中国東北区から北日本付近へ移動する。
- 9日は、弱い気圧の谷が東シナ海へ進む。

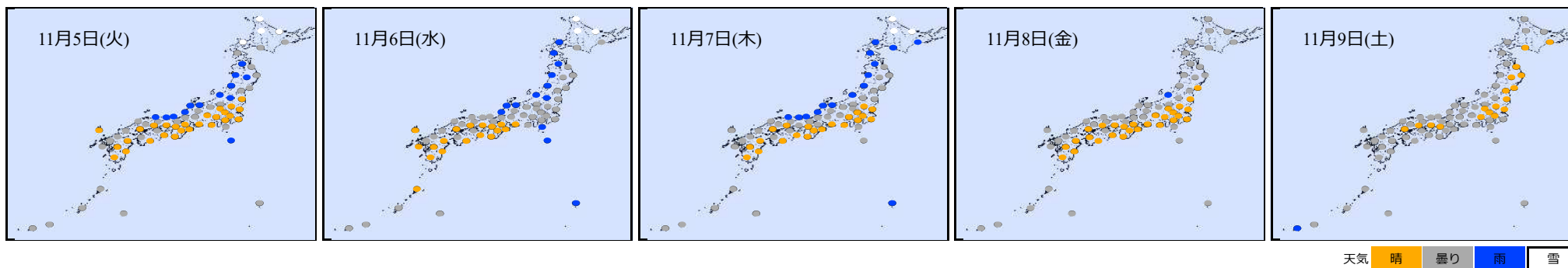
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

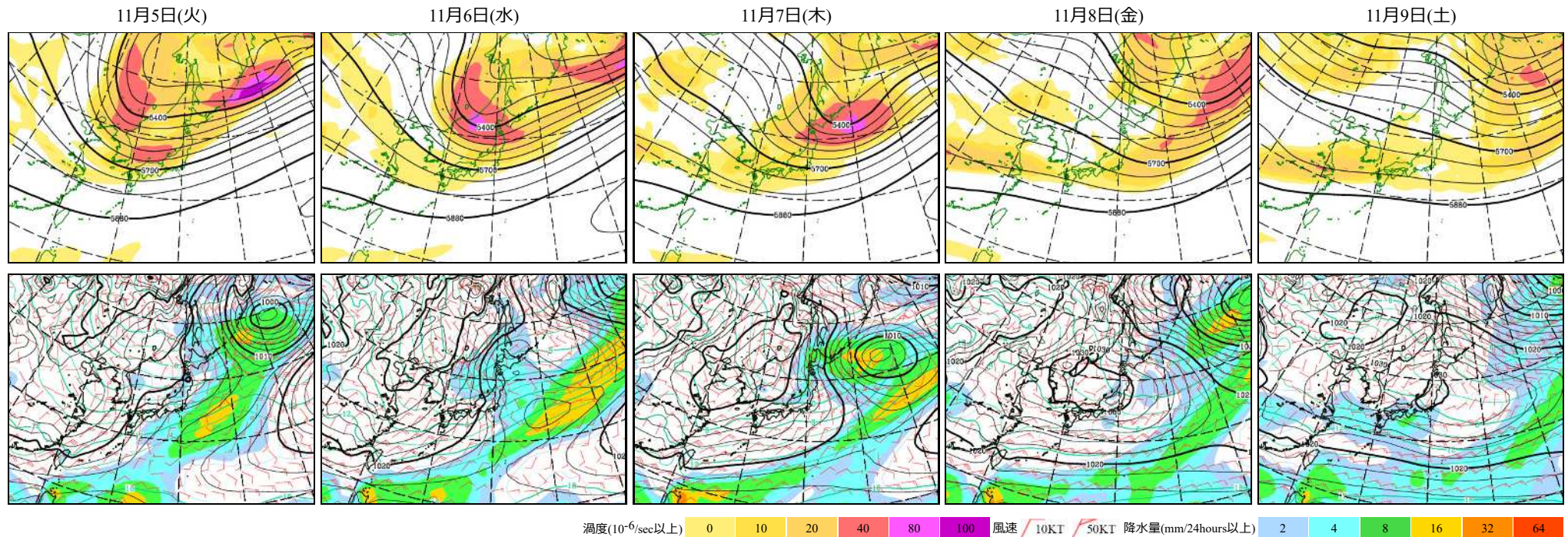
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

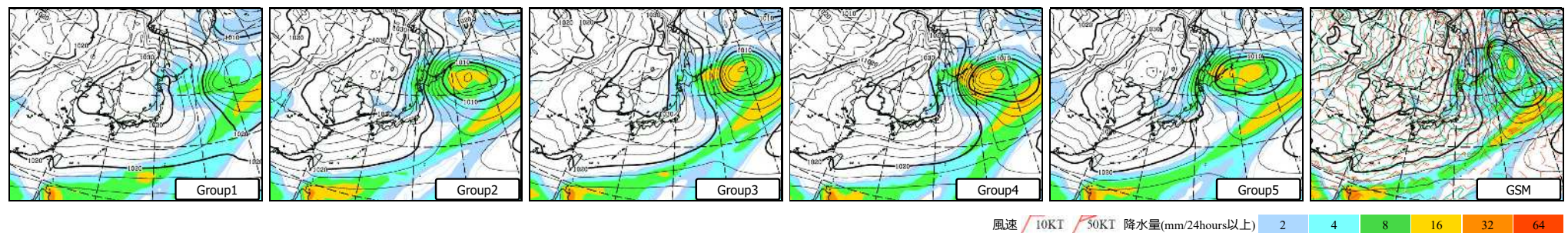


- 北日本と東日本日本海側では、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 西日本日本海側では、雲が広がりやすく、雨の降る所がある。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側では、晴れや曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美では、雲が広がりやすく9日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月7日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- スプレッドは比較的小さいが、期間の後半は特定高度線のばらつきが大きくなる。
- 6日から7日は、北日本付近を通過する気圧の谷が明瞭となり、北日本を中心に降水確率ガイダンスの値が大きくなった。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。